

職員調査 集計結果

京都市西京極児童館

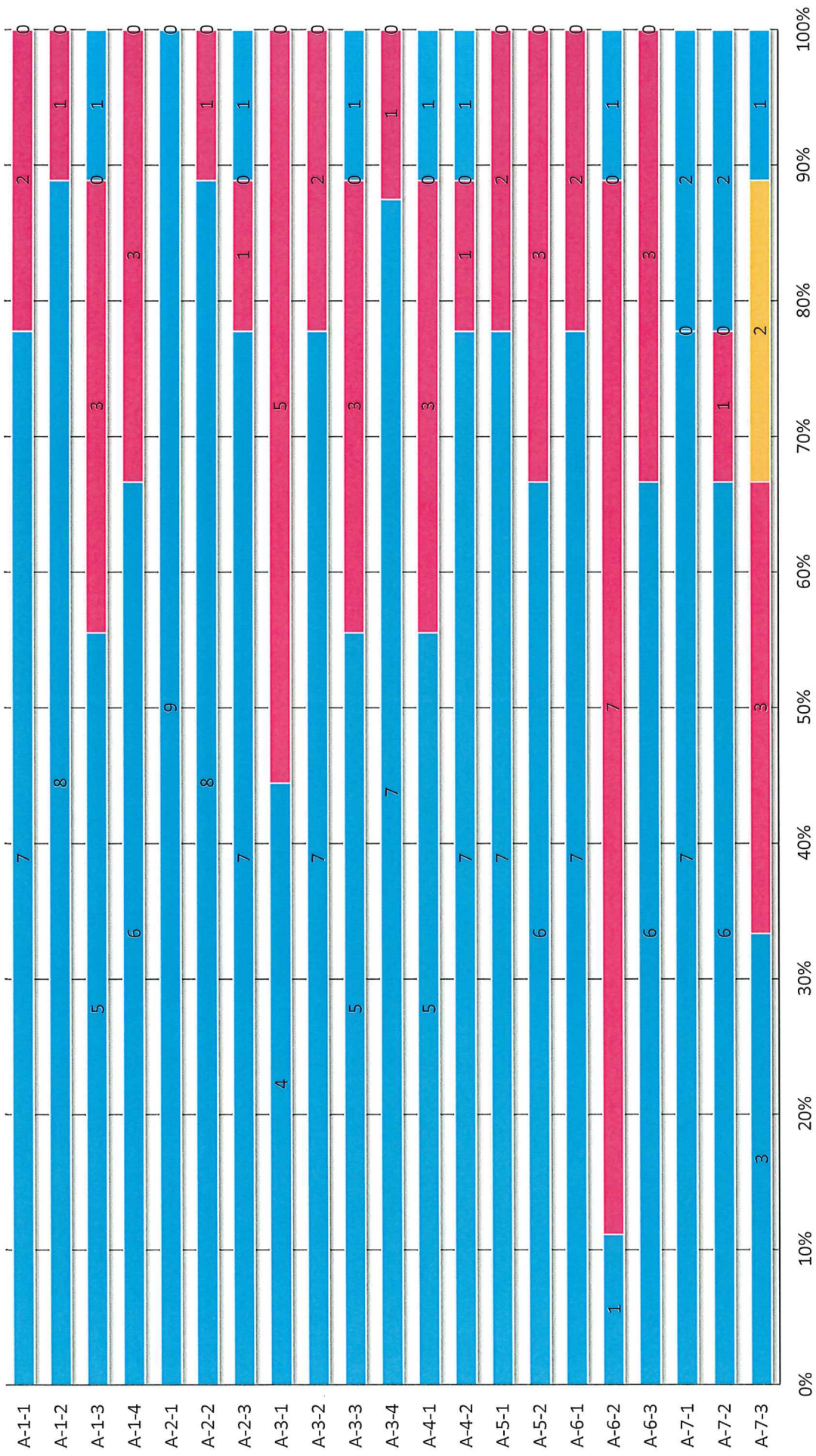
調査期間：2019年4月25日～5月15日

回答数：9名

一般財団法人 児童健全育成推進財団 第三者評価室

評価項目		標準項目	評価(4段階のうちどれか1つに○)			
			できている	できていないところがある	できていない	知らない・分からない
A-1	遊びの環境整備を行っている	1. 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	7	2	0	0
		2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	8	1	0	0
		3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	5	3	0	1
		4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	6	3	0	0
A-2	乳幼児と保護者への対応を行っている	1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している	9	0	0	0
		2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	8	1	0	0
		3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	7	1	0	1
A-3	小学生への対応を行っている	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	4	5	0	0
		2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	7	2	0	0
		3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	5	3	0	1
		4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	7	1	0	0
A-4	中学生・高校生世代への対応を行っている	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	5	3	0	1
		2. 中学生・高校生世代の子どもが自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	7	1	0	1
A-5	子どもの権利を尊重した支援を行っている	1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	7	2	0	0
		2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	6	3	0	0
A-6	配慮を要する児童・家庭への支援を行っている	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	7	2	0	0
		2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	1	7	0	1
		3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	6	3	0	0
A-7	地域の児童の育成環境づくりを行っている	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	7	0	0	2
		2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	6	1	0	2
		3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	3	3	2	1

京都市西京極児童館 職員調査 選択項目



■ できている
 ■ できていないところがある
 ■ できていない
 ■ 知らない・分からない

評価項目	自由記述
A-1 遊びの環境整備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内のみでの施設には、設定されることに限界があるのは仕方ないが、安全面への配慮とともに、子どもたちにとって新たな期待を持たせられるあそびの展開ができるようになって欲しいと思う。 ・ルールや片づけの表示を貼り出している。 ・絵本を年齢別で分け、タックシールを貼ることで分かりやすくしている。 ・中高生向けに「児童館を利用する時のルール」を貼り出している。 ・年代別のおたより等でお知らせしており、遊ぶ場所を区切って住み分けを行っている。 ・施設の中に学童児がグーグー詰めで遊んでいるので、できていない時がある。 ・同じ施設内で過ごすので、中学生が小学生と相撲をとったり、さらには、乳幼児と関わる小学生の姿がある。 ・静かに座するあそびや体を使ってするあそび等、子ども達が好きなもので遊べるようになってきている。各あそびのルールも決まっているものが多い。 ・館が古いため、トイレ等が汚い、狭い。夏、エアコンをフルでつけてほしい(全館)。 ・子ども同士のトラブルやけががないよう、あそびの場所を区切るなど工夫している。土曜日にも乳幼児親子が遊びに来たり、職員と話すために中高生が来たり、気軽に来館できる雰囲気はあると思う。乳幼児親子が来た時は、小学生と一緒に遊ぶ姿もある。 ・遊具の片付け方やきまりなどを文章や写真で表示し、初めての人でも分かりやすくしている。 ・乳幼児から大人まで幅広い年齢層の利用があるが、40年以上前の建物なので使い勝手が良いとは言えない。
A-2 乳幼児と保護者への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達に見合ったあそびの展開を心掛けていると思うが、例年の取り組みがマンネリ化しないためにも、保護者のニーズに思いをかけつつ、常に工夫を心掛けることも必要かと思われる。 ・乳幼児クラブでアンケートを取り、ニーズに合わせたプログラムを考えている。また講演会を企画している。 ・幼児クラブでは、保護者が企画に参加するプログラムもある。 ・自由来館もあればクラブもあるので日常的に乳幼児親子の来館がある。 ・クラブでは毎年アンケートを取っており、ニーズ調査を行っている。 ・クラブ内で係が決められており、作業などを通して交流をしている。 ・年度が変わり、新しい親子への声掛けや、1人での保護者への声掛け等、気に掛けるようにしている。保護者にとって居心地の良い場所になるよう、寄り添えるよう心掛けている。 ・幼稚園の帰り等もあそびに来てくれる。お昼ご飯を食べる目的での利用も多い。クラブは1年間を通して行い、アンケートから希望をひろって実施している。クラブの中で係を決めることで、一緒にクラブを運営している。 ・乳児クラブ・幼児クラブ・乳幼児の広場を定期的に開催している。入部はいつでもできるようにしている。 ・アンケートに基づき、親子料理教室・子育て講演会・ベビーマッサージ等を開催している。
A-3 小学生への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の児童それぞれに抱えている問題は、常に保護者との関わりなくしてはあり得ない。子どもへの理解を深めるには、並行して保護者と共通の認識、相互理解への意識を持つことであると思う。特に、前提として職員、介助者等の共通認識があることが大切だと思う。 ・個別対応の児童については、職員で共通意識を持つようにしている。 ・屋の会等を利用し、情報・対応の共有を行っている。 ・学童クラブでは、班を編成し、集団の意識づけを行っている。 ・あえてその部分を強調した交流会等は行っていない。自然に交流できるよう職員が援助している。 ・行事では実行委員会を作り、子ども達のやりたいことを実現できるようサポートしている。 ・個々への対応を心掛けているが、子ども的人数が多いため、ゆっくり一人ひとりと関わる時間がない。今は、新1年生を中心に1日の流れで全体が動いている。その中でトラブルがあった時に対応している。 ・一人ひとりに合った対応は心掛けているが、適切な援助ができないこともある。集団が大きいため、意図や思いが子どもに伝わりきらないこともあるが、より良い対応を日々模索している。手話クラブでろう者と関わったり、全体に向けて「耳が聞こえないとは？」というお話し会も設けて、障がいへの理解を深められるよう取り組んでいる。 ・開館以来、自由来館者の増加には力を入れてきた。 ・高学年の利用促進のため17時30分まで(市内のほとんどの児童館は17時)遊べるようにしている。 ・おぼけ屋敷やクリスマス会といった行事では、4年生以上の子どもが実行委員として関わっている。
A-4 中学生・高校生世代への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的には少ないが、毎月企画を行い、利用者増加を目指す。 ・以前に比べると中高生の利用は減ってきた。 ・中高生にアンケートを取り、やりたいことを聞いて、「中高生タイム」を行っている。 ・小学生から利用している子ども達が今も来てくれる。常連さんが新規さんを連れてきてくれる。 ・中高生の日常的な利用はあまり多くないが、行事等の参加は促している。中高生本人に、児童館でしたいことを聞く等、ニーズをひろう工夫をしている。中高生向けのクラブもある。 ・最近来館者は少なくなったが、年間を通して映画・卓球・サンタクロース等の取り組みを行っている。エコクラブには20人以上の中高生が登録し、キャンプ・ポーリング・親子交流会への参加がある。

評価項目	自由記述
A-5 子どもの権利を尊重した支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な子ども達の要求に寄り添うことが理想であると思うが、答えてあげたい子どもの数に対して、大人が充分に対応できる余裕がない現状がある。 ・高学年以上が実行委員となり、企画・運営する行事がある。 ・意見箱をつくり、子どもの気持ちに寄り添えるよう、返事を掲示している。 ・出来ている、と思いたい。 ・お帰りの会等で子どもの話を聞いたり、日常の中で困っている子どもへは声を掛けている。 ・各クラブや行事で、子ども達がしたいことを聞いて実施するよう心掛けている。「意見箱」も設置し、子どもの要望を叶えられる工夫をしている。 ・意見箱を設置し、出された意見は館内に掲示しているが、「〇〇の映画を見たい」「だがしやで〇〇のおかしを売ってほしい」という意見が多い。
A-6 配慮を要する児童・家庭への支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・担当職員は、かなりのオーバーワークとなりながらも対応に苦慮している。学校、地域との連携でより効果的になることを望む。 ・2階にあるため、ベビーカーや車イスに対する対応が不十分である。障害(車イス)の子どもを2階まで介助するのが大変。 ・担当がしっかりと対応している。 ・電話や来館時等、いつでも対応している。 ・ソフト面では、職員が話し合い、できるだけ対応・支援を行っているがハード面が弱く(人の数や設備等)京都市に改善をお願いしている。 ・今のところ、そのような事案はないが、施設内で発見した場合、すみやかに通告・情報提供する体制を整えている。 ・連絡ノートや電話・対面等、常に連携を取っている。支援員への相談や学校等とも連携を取っている。 ・支援できるよう努力はしているが、人手不足のため大変である。 ・保護者対応が特定の職員にかたまってしまう。障がいのある児童に対してサポートを欠かさず行いたい、人数等の問題から難しいこともある。 ・保護者が気楽に相談できるよう、体制は取っている。障がいのある子どもへの支援として臨時職員を採用し対応しているが、人手不足で必ずしも十分ではない。以前ネグレクトの親がいた時は児相や小学校と連携を取り対応した。ネットワークはできている。
A-7 地域の児童の育成環境づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・担当がしっかりと対応している。 ・地域が企画した取り組みに、児童館も応援・協力している。 ・防犯・安全マップへの情報提供、発信も行っている。 ・協議会は設けていないが、別の会議で地域の方と話し合う機会がある。 ・地域の老人会との交流やデイサービスとの交流など継続して行っている。 ・地域のお年寄りが卓球や将棋を教えるために来てくれることもある。小学生の登下校時に、見守り隊の方が支援してくれている。地域の会議に館長が出席している。 ・地域からの出演依頼があれば積極的に参加し、情報交換を行っている。放課後見守り隊の会議に参加し児童館の取り組みやお互いの情報交換をし、共通認識を持っている。